

2027 年度 鎮西学院大学 学校推薦型選抜「課題作文」

問題 次の文章を読み、(1)、(2)の問いに答えなさい。

生成 AI をどこまで、どう使うのか。教育現場で切実な問題になっている。まず、そもそも学生たちはどのくらい使っているのだろう。

今年5月、科学雑誌「サイエンス」で発表された論文は、米国の20大学の学生約10万人を対象にしている。2024年時点で、4割が月に1回以上、生成 AI を使っていた。日本では今春、東京工科大が、1年生の9割以上がふだんから生成 AI を使っている、と発表した。

米国では昨年、こんな研究が話題になった。54人が3グループに分かれて作文を書く。生成 AI を使う、検索エンジンを使う、何も使わないという三つだ。すると生成 AI を使った人の8割は、直後でも自分の文章を思い出せず、文章の主張や視点も画一的だった。

書いても「自分のもの」になっていないため、内容が頭に入らないということらしい。研究は、「自分の頭で考えるのは負荷は高いが、深い学習成果がある」としている。

身になる思考や知識を手に入れるのに早道はない。わかってはいても、目の前に使える道具があれば使いたくなるのが人の常だ。学生だけではない。仕事でどこまで生成 AI に頼るべきか、悩む人も多いだろう。筆者もそんな一人だ。

そんなことを思いつつ、ふと考えた。AI は、聞けばいくらでも答えを返してくれる。でも、私が何を問うべきかは、教えてくれない。何に疑問を持ち、どんな問いを立てるのか。そこにこそ、人に残された創造性があり、人間の面白さがあるのではないかと。

出典：朝日新聞【天声人語】2026年7月12日

- (1) 上の文章を読んだ上で、あなたが考える「人間の創造性を高めるための生成 AI の上手な利用法」について、400字以内で答えなさい。
- (2) (1)で述べた「利用法」を実現するために、4年間の大学生活であなたが取り組んでいきたいことをできるだけ具体的に記述しなさい。字数は700字以上800字以内とします。